

ひびき通信

平成 26 年
4 月版

通報と避難訓練を実施

本番さながら、ご利用者も一緒に参加

在宅サポートセンター生田の避難訓練と通報訓練がこのほど、当センターのグループホーム響で実施されました。訓練には、グループホームだけでなくデイサービスからも職員あわせて六名が参加。川崎市多摩消防署からも署員二名が指導に訪れました。

初期消火対応や避難誘導の方法などを確認

1階厨房からの出火を想定

川崎市多摩消防署員が立ち会い



▲ 出火場所がわかる
火災受信機

▶ 職員に誘導され
避難するご利用
者たち



自動火災報知機（写真上）と厨房で初期消火訓練を行うスタッフ（写真下）

たことを合図に、職員一名が出火場所となった1階厨房の初期消火に向かうなど、本番さながらの動きを確認。さらに、もう一人の職員は、消防署からの確認の電話に対して、住所や出火場所、入居者数などを伝える電話連絡の対応をチェックしました。

介護現場での豊富な事例を通して

声かけのコツ学ぶ

介護現場における「声かけ&コミュニケーション」セミナーがこのほど、当センターで開催されました。同じタイトルの本



を監修した金田センター長が講師を担当。セミナーでは、入浴介助や食事介助、夜間のトイレ誘導時の声かけなど、介護現場ならではの場面を想定しながら、声の大きさや調子、言葉数、会話の内容など、細かな点を解説しました。参加した方々は、豊富な経験に基づいた事例を通して、声かけとコミュニケーションのコツを学びました。写真。

た厨房での初期消火活動の後は、煙の流出を防ぐため必ず扉を閉めることなど、被害を極力抑えるためのポイントが指摘されました。

当センターでは、火災を検知した場合に、自動的に消防署に通報するシステムが設置されています。また、火災が検知された場所をモニターで確認することができます。

この日の訓練では、夜間に1階厨房から出火したとの想定で行われました。火災報知機が鳴ったことを合図に、職員一名が出火場所となった1階厨房の初期消火に向かうなど、本番さながらの動きを確認。さらに、もう一人の職員は、消防署からの確認の電話に対して、住所や出火場所、入居者数などを伝える電話連絡の対応をチェックしました。

グループホーム響で運営推進会議

食と健康について意見交換

グループホーム響の運営推進会議がこのほど、当センターにて開催されました。同会議は、地域住民や家族の方々とケア

の情報を共有し連携を図ることを目的に隔月で開催されています。この日の会議には、町内会長や老人クラブの会

長をはじめ家族の方など十名が参加。管理者から最近の状況報告があったあと、豚肉やヨーグルトの効用や牛乳を加えてつ

くる乳和食など、普段グループホームでも出している料理の話を変えて「食事で健康に」をテーマに意見を交換しました。